

展覧会のご案内

「上村松園展」

11月2日(火)から12月12日(日)まで、京都国立近代美術館では、東京国立近代美術館に引き続き「上村松園展」を開催します。京都の四条御幸町辺りで育った松園は、幼い頃から絵を描くことを好み、鈴木派の鈴木松年をはじめ幸野楳嶺、竹内栖鳳に師事して画技を磨きます。十五歳の時に《四季美人図》が、イギリスの王族・コンノート公に購入されるなど、若くして頭角を現わし、以後、生涯にわたって、品格の高い女性像を描き続けた松園。本展覧会は、《焰》《雪月花》《序の舞》など、久しぶりに関西に里帰りする代表作をはじめ、その初期から絶筆までを展示するもので、松園芸術を育てた京都の地で、彼女の珠玉の名画群を是非ご堪能ください。



《序の舞》1936(昭和11)年
※前期



《焰》1918(大正7)年
※後期

「上村松園展」関連イベント情報

◆記念講演会◆

「上村松園のもとめた世界」上村淳之氏(日本芸術院会員・日本画家)

日時：11月6日(土) 午後2時～3時30分

定員：100名(聴講無料、要申込)

※申込方法

往復ハガキに住所、氏名(返信面にも)、電話番号を明記のうえ、下記にお申し込みください。

〒540-8588

大阪市中央区大手前1-1-1

日本経済新聞社企画事業部「上村松園展講演会係」

※10月22日(金)締切(当日消印有効)

※参加希望者1名につき1枚の往復葉書でお申し込みください。

※応募多数の場合は抽選となります。

「上村松園—その人と芸術」尾崎正明(京都国立近代美術館長)

日時：11月12日(金) 午後2時～3時30分

定員：100人(聴講無料、当日午前11時から受付にて整理券を配布します)

※講演会はどちらも京都国立近代美術館1階講堂で行います。

会期：2010年11月2日(火)～12月12日(日)

(期間中、作品の一部展示替があります)

前期：11月2日～11月23日

後期：11月25日～12月12日

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日

※11月22日(月)は開館、11月24日(水)は休館

◆特別文化講座◆

「序の舞について お話と実演」金剛永謹氏(金剛流宗家)

日時：11月6日(土) 午前11時～午後12時30分

会場：金剛能楽堂(京都市上京区烏丸通中立売上ル)

定員：400名(先着順)

料金：2000円(「上村松園展」の観覧券付き)

※お問い合わせ先

金剛能楽堂

電話：075-441-7222

(月曜除く、午前9時～午後5時)

「松園の描いた髪型 お話と実演」

講演・解説：猪熊兼勝氏(京都橘大学名誉教授)

結髪・衣紋：南登美子氏(有職美容師)

日時：11月18日(木) 午後2時～3時30分

会場：京都国立近代美術館1階講堂

定員：70名

(聴講無料、当日午前11時から受付にて整理券を配布します)

◆友の会特別解説会◆

会員の皆様のために、閉館後、本展覧会の特別解説会を開催します。

日時：11月11日(木) 午後5時45分～

(午後5時30分に一階インフォメーションにて集合)

定員：20名(先着順)

解説者：小倉実子(当館主任研究員・本展覧会担当者)

※申込方法

申し込み先：京都国立近代美術館事業係

電話：075-761-4115

(月曜から金曜まで午前10時～午後5時)

※お申し込みの際は、お名前・会員番号をおっしゃってください。

● **パリの日本文化会館にて京近美のコレクションがご覧いただけます。**

「近代日本工芸 1900—1930 — 伝統と変革のはざまに」展

“Les arts decoratifs japonais face à la modernité 1900-1930”

会期：2010年10月13日（水）～12月23日（木）

企画：監修：松原龍一（当館主任研究員）

主催：国際交流基金、パリ日本文化会館、パリ日本文化会館支援協会

Web サイト：<http://www.jpf.go.jp/j/culture/new/1007/07-01.html>



杉林古香「鶏梅蒔絵文庫」明治39年

明治維新以降、日本では、富国強兵の名のもと殖産興業と輸出貿易が盛んに行われるようになり、工芸の世界でも、陶磁器、漆器、染織、七宝など様々な工芸品が輸出されました。それらの作品は、各国で開催された万国博覧会で高い評価を得ました。しかし、変化に乏しい図案と作品の質の低下のため、明治中期には徐々に評価を落とすこととなりました。その危機に気づいたわが国は、図案研究及び工芸家とともに海外の厳格な評価に堪えうる工芸品を制作するために努力しました。本展覧会は、19世紀末に流行したアールヌーヴォー絶頂期のパリで開催された万国博覧会の年（1900年）から、1925年に開催された現代装飾美術産業国際博覧会、通称アール・デコ博覧会と呼ばれる大きな博覧会頃までを中心に構成するものです。1900年のパリ万博は、下落した評価を高めるために日本が再起をかけて出品した転機の博覧会であり、1925年の産業博覧会でも日本から多くの工芸作品が出品されました。1900年から1930年の30年間は、海外からの影響を受けつつ日本独自の個性も含みながら、国内で多くの作品が制作された時期でした。この2つの博覧会の狭間における近代日本工芸の躍動をパリで紹介することは、日本文化理解への一つの好機となるでしょう。

● **テルミンコンサートを開催しました！**

日時：9月24日（金）午後6時～7時半

演奏者：IpsO Facto、島村聖香

9月24日（金）午後6時より、当館一階ロビーにてテルミンコンサートを行いました。当日は、友の会会員の皆さんにご用意しておいた最前列の席にも、約10名の方がお越しくださいました。演奏は電子音楽ユニット IpsO Facto によるもので、テルミンをはじめ、コンピュータの音源を使ったギターやキーボードの現代的な音に、邦楽囃子・打物をコラボレーションした異色のコンサートとなりました。コンサート後は、船田さんのご好意で観客の皆さんもテルミンを演奏してみたり、珍しい楽器を目の前に不思議そうな反応も見受けられました。



演奏の様子
（右：船田奇岑、左：島村聖香）

● **今後の企画展一覧**

- 「上村松園展」
2010年11月2日～12月12日
- 「麻生三郎展」
2011年1月5日～2月20日
- 「パウロ・クレイ：おわらないアトリエ」
2011年3月12日～5月15日
- 「没後100年 青木繁展」
2011年5月27日～7月10日

● **友の会会員限定、「日本画」の前衛展の解説会を開きました！**

日時：9月25日（土）午後4時～5時半

参加者：4名

解説者：山野英嗣（当館学芸課長・企画者）

「日本画」の前衛1938—1949展の解説会が行われました。今回の参加者は4名でした。まずは事務所のテーブルを囲んで、秘蔵のスクラップブックを見ながら、展覧会の企画者である当館学芸課長のブレ解説会が開かれました。貴重な資料を並べての解説となり、皆さんに展示作品以外に前衛展の背景にも関心を持っていただく良い機会になったと思います。

閉館後、展覧会場へ向かい、会場を約1時間かけて鑑賞しました。企画者の思い入れのある作品の紹介をはじめ、前衛展にまつわる様々なエピソードなど、解説会というより、皆さんで会話をしているような和やかな雰囲気で行われました。京近美では展覧会毎に、友の会会員の様限定の解説会を行っております。次回は大村松園展にて、閉館後の解説会を行いますので、是非ご参加ください。（前のページに詳細を記載しております。）

10月より、友の会の特典内容が変更されます。

10月以降の入会・更新より、友の会会費の減額及び特典内容を変更します。主な変更内容は下記のとおりです。

- ・会員の年会費減額
 - 一般：5000円→3000円
 - 学生：3000円→2000円
- ・年間スケジュールの送付
- ・学生特別会員、団体特別会員の設定廃止
- ・「友の会ニュース」、「解説会のご案内」を中止

尚、今年9月までに入会・更新された方は、変更前の特典内容で2011年9月までご利用いただけます。来年10月以降、すべての一般会員の皆さまが新しい特典内容へ移行が完了しますので、それまでの間、特典内容に差異が生じることをご了承ください。

会員証の有効期限は1年です。変更後の特典内容にも、国立美術館4館の常設展無料観覧や、企画展も当館のみならず、国際美術館でも一回無料で観覧できます。お得な特典はまだまだございますので、是非今後も京近美をご愛顧ください。よろしくお願い申し上げます。



解説会の様子

